

18

工藤卓爾君頌徳碑

大正15年（1926）7月15日 建立

「建立者」青森市長 阿部政太郎

「題字・書」篆額并撰 一戸兵衛、書 伊藤明瑞

【解説】

初代青森市長・工藤卓爾（1860～1926）の業績を称えて建立された石碑。

工藤は、青森師範学校・青森県立専門学校で学んだのち、教師や青森県庁職員を経て「陸奥日報」の主筆に迎えられる。明治19年（1886）青森県議会議員に選ばれ、明治25年（1892）に衆議院議員となり、明治29年（1896）には青森町長に転じ、周囲の町村との合併を推進して明治31年（1898）に青森市を誕生させ、初代市長に就任しました。

市長就任後は4期・約20年で、女子師範学校や工業徒弟校の開設など教育面の充実に重点を置き、また明治43年（1910）に起きた青森市大火からの復興にも尽力しました。

大正6年（1917）には政友会から総選挙に出馬して当選し、再び国政で活躍。その他にも青森市議会議長や青森商業銀行頭取なども務め、青森の発展に大きく貢献しました。

題字は弘前市出身の陸軍軍人・一戸兵衛、書は書家の伊藤明瑞となっています。



【石碑に彫刻されている文字】

（表面）

卓爾工藤君は津軽藩士中田新の次男にして萬延元年三月二十五日弘前代官町の邸に生る後同藩土工藤廣吉の養子となり青森に住せり君幼にして穎悟夙に青森県師範学校及青森県立専門学校に学ひ卒業へて青森小学校に長たり後辞して東京に遊び更に明治法律学校に学ぶ明治二十一年市町村制の実施せらるゝや君選れて青森安方町会議員と偽り翌二十二年青森全市街聯合会議員に列せり二十六年出で、江差新聞社に入り一時操觚の業に従ひしか二十九年迎へられて青森町長に就任し三十一年第一次青森市長に推され初期の市政を整理し爾來任を襲ぬること数次治績大に見るへきものあり其間に於て市會議員県會議員に當選し又商業會議所特別議員教育會長農會長の職を兼ね更に衆議院議員に推されて国政に参与するに至りしも君は常に當市の福利を以て念とし拮据營営て倦むことを知らざりき大正十三年十一月不幸にして病に犯され其職を辞し翌十四年七月十九日溘然として逝く享年六十六君一男あり卓二郎といふ其後を紹く君資性温厚恭謙長者の風あり加ふるに志操高邁識博く学達し弁舌亦暢快なり其職に膺るや勵精恪勤嘗て私心を挾まず明治四十三年全市灰燼に帰し君その善後策を講じ狂奔寢食を廢し熱誠時人を動かし時の武田知事と同じく闕下に伏奏するに及んで天下の同情を翕然として霽集し克く時艱を拯ふ得たるか如きは美に市民の牢記して永く忘るゝ能はざる所とす故に今其功績を悠久に伝へ後世感孚の資に供せんか為め此碑を建立すと云ふ

從一位勳一等功二等

一戸兵衛
伊藤明瑞

篆額并撰
書

大正十五年七月

（裏面）

大正十五年七月一九日

發起人

阿部政太郎
石館喜久造
武田平三郎
中村利助
久慈玉三郎
藤林源右衛門
北谷幸八

樋口喜輔
山内元八
高谷英太郎
村本良助
熊沢平次郎
福井義弘
鈴木友吉
設計者技師
石工

田中勇三
川口栄之進
成田 貞
梅津忠兵衛
山田金次郎
坂本熊吉
鈴木新吉
工藤豊太郎
志田 留蔵